


 ずいそう

今年の秋は何する人になろうか

末 永 貴 法

この拙い文章が掲載される頃は、秋真っ只中のことだろう。

私にとってこの秋は今までに無い秋である。

唐突であるが、厚生労働省の調べによると、1997年がピークで741万人、その後減少傾向を辿るが、それでも、60万人から70万人で推移しているそうである。

この数字が何を意味するか読者諸兄はお判りだろうか。

そう、単身赴任のオトサン（？）推計である。私もとうとう仲間入りし、初めての秋を迎える。

秋と聞いて何を思い浮かべるか。先ず真っ先に出てくるのが「食」。私の場合は秋でなくても食欲は旺盛なのだが、最近ではもっぱら「食べる」より「飲む」欲のほうが旺盛になってきた。私が属する新潟トランス（株）は、その名の通り新潟にルーツを持つ会社である。新潟と聞いて連想するのが「米」「日本酒」「田中角栄」の私にとって、欠かすことが出来ないのが日本酒と言いたい所なのだが、実は日本酒より焼酎、それも芋焼酎に最近では嵌っている。もちろん、日本酒も美味しいと思う。八海山、麒麟山、越の寒梅など名立たる銘酒があるが、でも最近では「芋焼酎」なのである。

芋焼酎といえば鹿児島、宮崎、すなわち九州が産地であり、芋焼酎好きは九州出身者が多いと連想される（私の勝手な想像かもしれないが）が、当の私とは言えば北海道出身で自宅も札幌、生粋の道産子である。何せ、生まれて30数年、北海道以外に居住したことが無かったが、5年ほど愛知県に居住したことがある。セントレアが開港し愛知万博開催の年の7月に名古屋勤務を命ぜられ赴任した。我が家の長男は愛知万博見物に来たと思っていたらしい。北海道、札幌しか知らない我が家にとって、名古屋といえば、トヨタのイメージしかない完璧なおのぼりさん一家だったが、後に日本史大好き青年になった長男に言わせれば、中部地方は歴史好きにはたまらない土地らしい。話は戻って北海道にもジャガイモを原料とした芋焼酎があるが、芋焼酎はやはり、サツマイモがいいなと思う。

そして、その芋焼酎のお供といえば、最近では栃尾の油揚げと村上地域特産の鮭である。

鮭をつまみに酒を飲む、なんともオッサンくさいが、その土地に居住して初めて知る隠れた名物を探すのも楽しみの一つであると思う。

その名物を探すツールと言えば、やはりインターネットが一番重宝する。「新潟・名物」と検索をかけるだけでいろんな物が出てくる出てくる。A級グルメからB級グルメまでありとあらゆる情報を入手できる時代に、ありがたさを感じる。

現代ほど情報入手が楽な時代になったのは、ここ十数年の出来事であり、それまでは人づてに聞くとか、アナログな方法が主流であったことは誰もが感じている所かと思う。

そんなアナログの情報入手の雄といえば、やはり「本」であると思う。

秋を象徴するワードに「読書の秋」というワードがある。

秋で無くとも本は好きな媒体である。情報を入手する手段と言うよりは、エンターテインメントの一つとして、読書にふける時間は好きな時間である。

中学時代、教科書に載っていた星新一氏のショートショートに始まり、流行の村上春樹（ノルウェーの森がベストセラーになった当時は、面白さがいまいち理解できなかった）など、色々な作品を読み漁った時期があったが、その当時から好きな作家がいる。

池波正太郎氏である。なかでも「鬼平犯科帳」シリーズは読み始めると止まらない。

主人公は言わずと知れた火付け盗賊改め方「長谷川平蔵」いわゆる鬼平である。火付け盗賊改方の頭、現代風に言えば警視庁捜査一課長と言うところであろうか。

極悪人には容赦なく、一般市民には人情深く、仲間同僚には懐の深さをさりげなく所作にみせるその立ち居振る舞いは、まさに理想の上司像そのものである。長谷川平蔵が生きていた時代に理想の上司ランキングがあれば、間違いなく1位を取るだろう。

歴史小説は人間力を上げてくれるとは思っている。

逆に、想像力を上げてくれる作家に最近では嵌っている。海堂尊氏の作品である。ドラマになった「チーム

「バチスタの栄光」の作者である。氏の作品の特徴は、一人の主人公を軸に数作品が展開され、「読みたい」と思わせるところにあると思う。現に私はチームバチスタの栄光を読み終えた後、書店にあった氏の作品を手当たり次第に購入し読みふけた。

一日に同じ書店に数回行くこともあったが、それくらい面白い。どう面白いか形容出来ない程面白いので、ぜひ読んでいただきたい作家作品である。

人間力を上げてくれるとか、想像力を上げるとか

言ってみたものの、全くと言っていい程読書の恩恵には預かっていない今の自分を考えると、まだまだ読み込みが足りていないのかなと、これを書いていて思う。

今年の秋は、単身赴任の恩恵に預かり、酒を飲みつつ、あらたな「嵌る」作品探しの秋にするのも一計かなと思う今日この頃である。

——すえなが たかのり 新潟トランスス(株) 東北営業所長——

